

花粉症 大気汚染で猛威

花粉症が猛威をふるっている。都内の三・五人に一人が花粉症に苦しんでいるという。「こちら特報部」でも、記者の半分がマスクに頼ってすごしている。今季は例年の二倍近い飛散量になると予想されているが、それに加えて、最近の研究では大気汚染が花粉症のリスクを高めることが指摘されている。気が抜けない状況が続く。(中山洋子)

このところ首都圏の「健康被害」(都健花粉予報マップは連日、康保険課)。花粉の飛散量「極めて多い」を示す量がシーズン中の累計です。真つ赤な色に塗りつぶす一方、あたり二千人以上になると、花粉症に十分注意することが必要とされる。今季は東日本を中心に、この目安を大

東京都市の花粉情報のアセス数もうなぎ上り。昨年二月から三月半の情報を提供期間で三十五万三千件だったのが、今年一月半です。すでに四月は一カ月半です。今月二十三日現在)に達している。花粉が多い年は当然、花粉症の患者も増える。「これまでの傾向を見ると、今年も症状が出る人

が、今年も症状が出る人

と、今年も症状が出る人

花粉 + PM2.5 ↓ アレルゲン大量放出

被害広げる仕組み解明



最多で、群馬県高崎市や宇都宮市などが続く。東京都千代田区も七千七百個と前年比で約五倍。過去十年の平均値と比べて

で、東京都千代田区で、花粉対策が不足している

も、一・八倍の大量飛散になるという。NPO法人「花粉情報協会」の佐橋紀男事務局長によると、飛散が少な

これまで花粉症の原因物質は、約三十種類のスギ花粉そのものと思われていた。しかし、原因のア

レルゲンは花粉の表面や中に含まれている物質だ。それが、破砕し、アレルゲンの粒が飛び出しやすくなる」と説明する。アレルゲンの粒は空中に一週間以上も滞留するばかりか、車の走行などで繰り返し舞い上がっているという。

「きれいな空気でも二割の花粉から微小なアレルゲンが飛び出す。汚染された大気では、それが八割に上る。去年の四五倍の花粉があるとすれば、汚染された大気中ではアレルゲン物質の量は数十倍にもなる」

王准教授は「微小なアレルゲンは気道から肺にも侵入し、花粉症ばかりかぜんそくの引き金にもなる」と警告。花粉症対策には目先のスギ花粉のみならず、大気汚染の解消が急務と訴えている。

二エースの追跡